

不倫人妻調教物語

杉原京子編(5)



# 不倫人妻調教物語



## 杉原京子編(5)



英輔と京子

英輔と京子は結婚当初から、性的営みはそれほど濃密でも積極的でもなかった。英輔は50代になり、勃起を持続させることが難しくなっていた。まだ30代の京子を満足させることができていないことを自覚し、それを後ろめたく感じ、いつそう欲情を抑えることになっていた。そうした負い目から、京子に生活の不便は感じさせないようにしようとしていた。だが、それによって京子が刺激の少ない日々につまらないと感じるようになっていたのは、皮肉な結果だった。英輔と京子の日常は、どこか遠慮がちな、腫れ物にさわるような状態であった。普段の京子は控えめな性格で、本当の自分を見せるようなことはしないタイプの人間だった。見せることを怖いと思う部分もあった。英輔は、そんな京子と夫婦であっても、深く結びついていると感じられなかった。そして、自分も京子に対して素の自分を見せることがなくなっていた。京子がM女で、自分の情欲を隠すことなく見せてくるまでは……

解説の視点

不倫がばれたと  
告げられた速水は、  
当初、焦りを見せた。



しかし、英輔が  
寝取られ願望の  
性癖の持ち主であり、



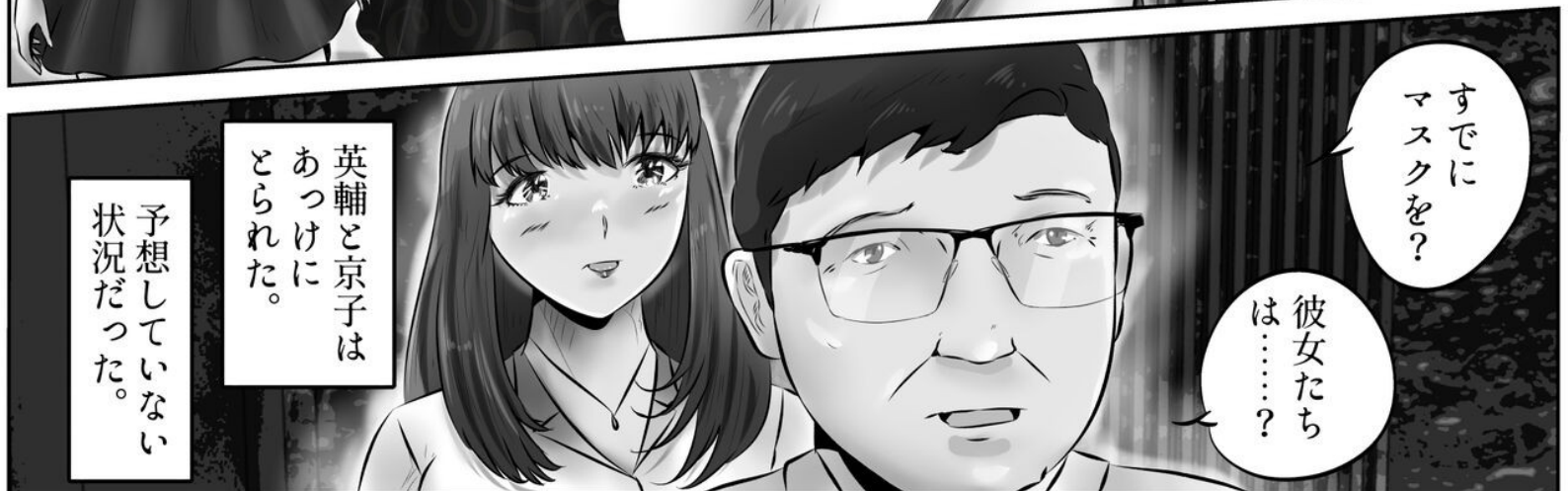
速水とのプレイを  
望んでいると  
告げられると安心し、  
提案を受け入れた。

京子は、英輔と共に、  
速水に指定された  
ホテルへ向かった。

S M 専門のホテルでも、  
廊下は普通だな

え、ええ……







調教プレイなら、お手伝いできるかと  
謎の女性達の登場は、英輔と京子を戸惑わせた。



旦那様に相応しい熟成肉穴にして差し上げます!

困惑する京子だが、もはや断れるような雰囲気になかった。

えっ？

シャワーを浴びた  
英輔と京子。



非日常感に  
不安と期待が  
入り混じっていた。

旦那様は、  
こちらにどうぞ

そんな二人を、  
エロ子という  
女性が誘う。

しばらくは、  
肉人形の奉仕穴を  
柔らかくする様子を  
楽しんでください



笑顔で、慣れた  
感じに、非日常的な  
言葉を放つ彼女。

さあ、あんたは  
こっちで奉仕に  
相応しい体に  
調教されるのよ



エロ子は、京子に  
拘束具を  
つけていった。

いつの間にか、  
部屋の中央には  
重そうな台座が  
置かれていた。

生贄を捧げるような、  
豪華な料理を  
並べるような……

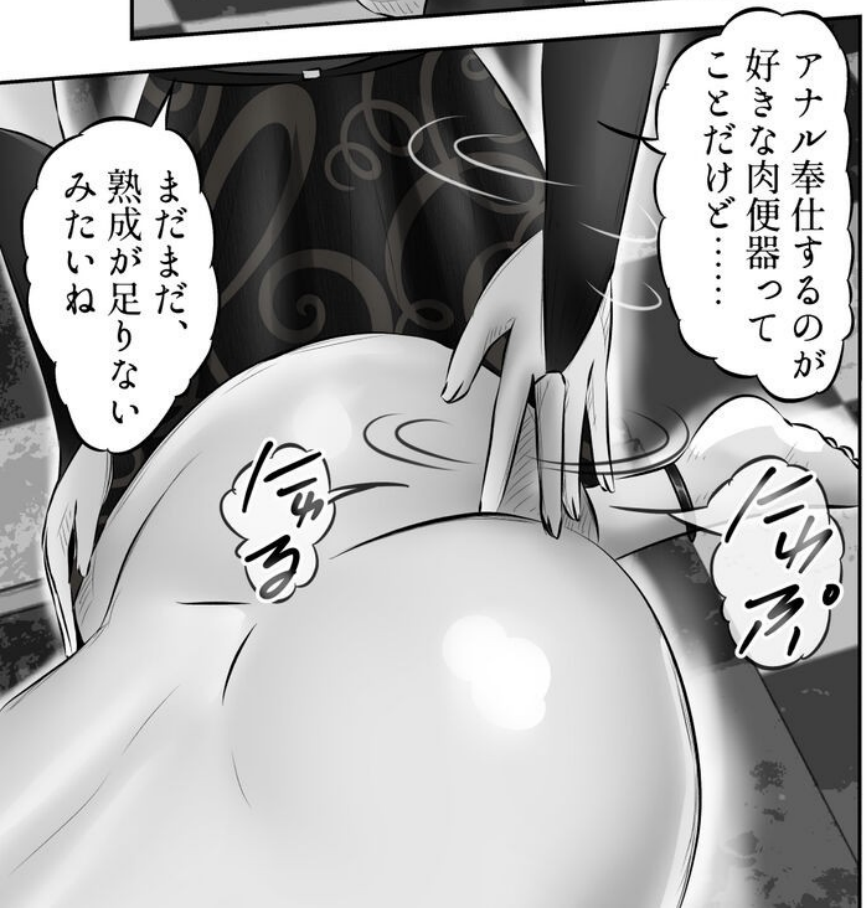
京子は台座に  
固定された。

全裸で、  
アナルもマンコも  
露出した状態で。

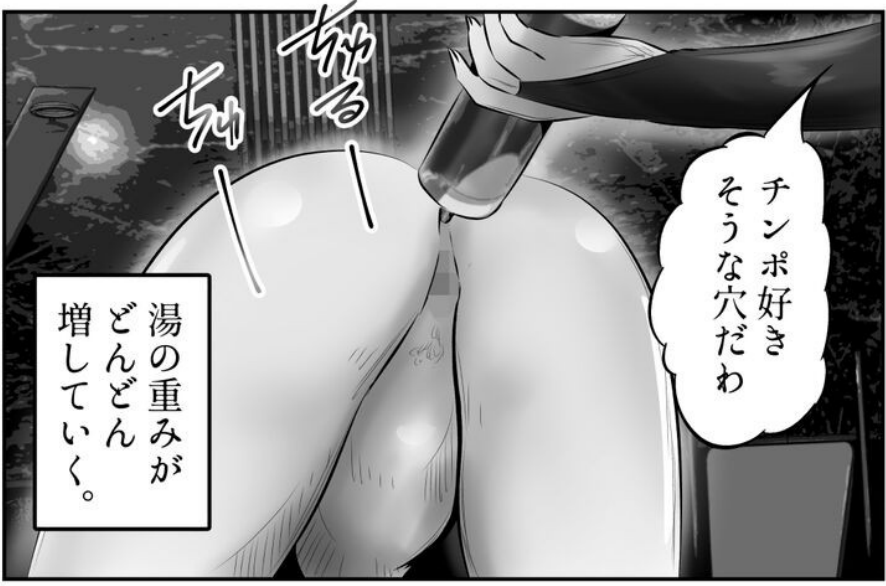
その恥ずかしい姿に、  
京子はすでに性的興奮を  
感じ始めていた。

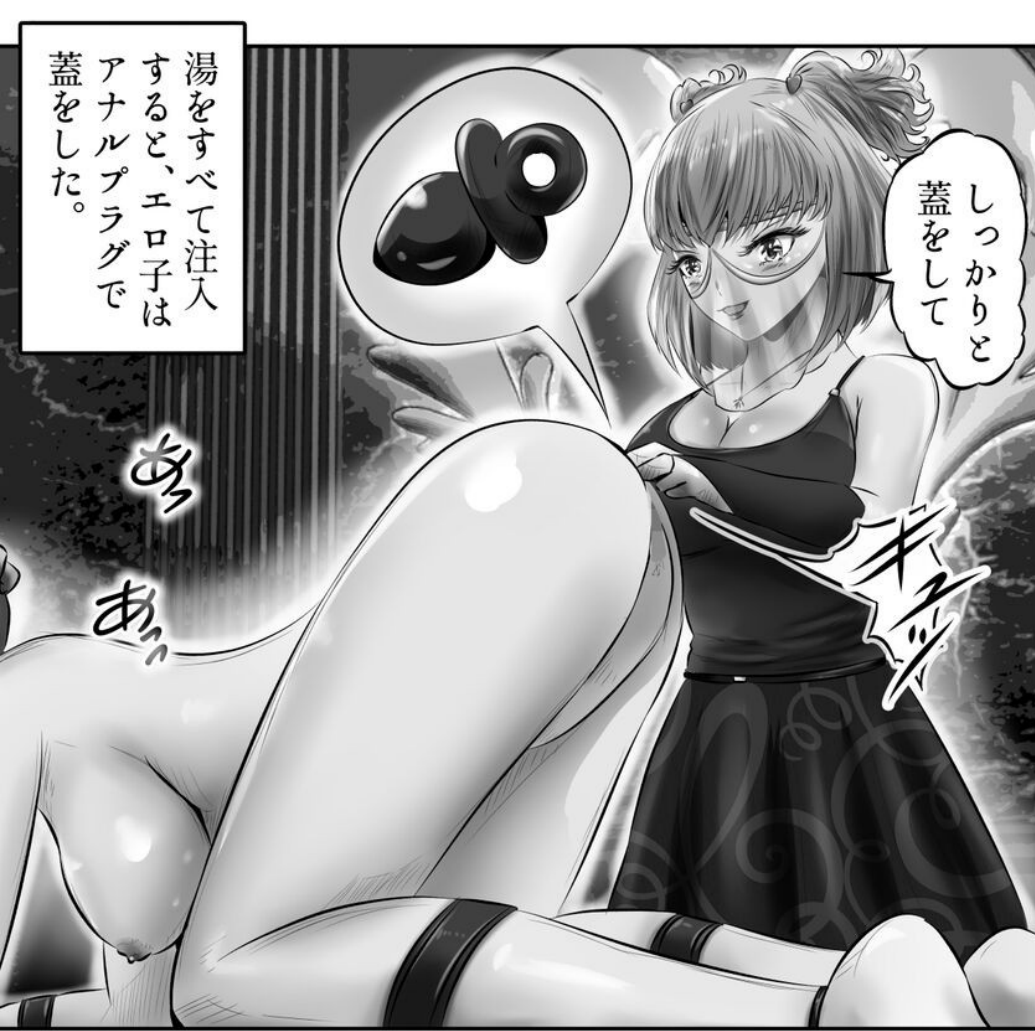
アナル奉仕するのが  
好きな肉便器って  
ことだけど……

まだまだ、  
熟成が足りない  
みたいね









湯をすべて注入すると、エロ子はアナルプラグで蓋をした。

しっかりと蓋をして

あ  
あ



いいのよ。泣いていいの

好きだから叫んでいいの

叫んで……？

エロ子の不穏な言葉に不安になる京子。

あ  
うん



ほら、こんなにお腹が膨らんだ

い、痛い。出した、出したいです

不快な重みと痛みが京子を苦しめる。

た  
た

思いっきり、  
叫んで

これから、  
いっぱい  
痛みを味わう  
んだから

下腹部を圧迫  
されると、鈍い  
痛みが増した。

ああ！  
痛い！  
痛い！！

うあぁ

うあぁ

あぁ

耐えがたい  
苦しみに脂汗が  
出る京子。

そう言いながら、  
乳首勃起してる  
じゃない

痛い！ 痛い！  
無理！ ああっ！  
痛い！ 痛い！！  
苦しい！！

しかし、どういう  
わけか性的感度は  
増していた。



エロ子はバラ鞭を  
思いきり打ち  
下ろした。

うるさい！

強烈な衝撃が  
京子を襲う。

あんたは肉穴が  
柔らかくなる  
ことだけ、考えれば  
いいの！

下腹部の断続的な  
鈍い痛み、  
鋭い鞭の痛み。

京子は遠慮  
することなく、  
泣き叫んだ。

ああ！  
痛い！  
痛い！  
痛い！  
苦しい！  
苦しい！  
苦しいです！  
無理！  
ああ！  
あなた！  
助けて！

そこには  
性的快楽など  
微塵もなかった。

助けを求める  
京子。

さらに鞭の  
鋭い痛みが  
京子を襲う。

うるせーこいつは！

あんたがすることは、  
助けを求める  
ことじゃないの！

皮膚に熱い針を  
刺されたような  
刺激が京子を  
苦しめた。

見せて  
ください

エロ子は容赦なく、  
鞭を振った。

はじける痛みにも、  
京子は理性を失い、  
泣き、叫んだ。

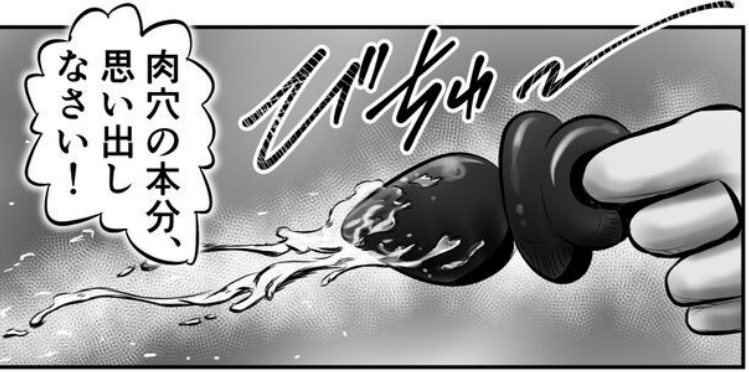
肉棒奉仕が  
あんたの仕事  
でしょ！



ほら、尻穴開放  
してあげるから！

背中  
の痛みが  
引くと、  
お腹の  
鈍痛が  
復活した。

肉穴の本分、  
思い出し  
なさい！



び

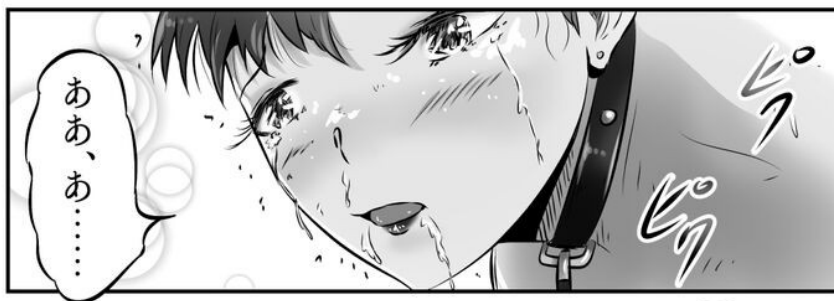




解放された  
肛門から、湯が  
大量に噴出した。  
尻肉は震え、  
肛門はひくひくと  
開閉を繰り返した。



京子にとって、  
耐えがたく  
恥ずかしい  
状態だった。



ああ、あ……



身悶えしながら、京子は湯を吹き出し続けた。

いやっ！  
いやいやっ！！

気持ちいい……、  
嬉しい……

我に返ると、心地よい開放感があった。



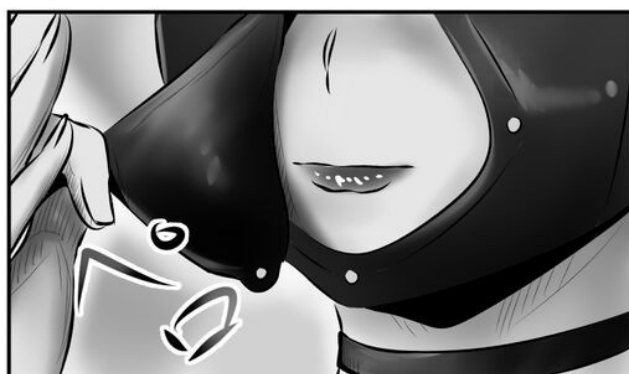
気持ちいいでしょ？

あ、あ、あ



英輔は、驚きながらも、見たことのない妻の姿に、ペニスを硬直させていた。

旦那様にも喜んでもらってるわよ



詩織は英輔のペニスを咥え込んだ。

龟头を舐め、根元まで飲み込む。



好きにさせてあげてください

彼女は肉棒奉仕が生きがいなのです



あなた……

旦那様のご奉仕は、あの肉人形に任せなさい

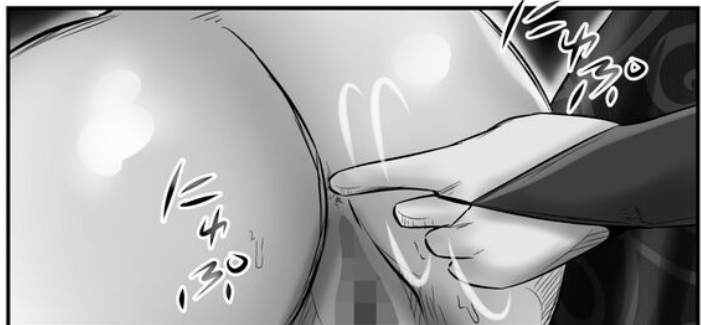
あなたは、肉穴を奉仕に相応しく鍛錬するの



さあ、どんどん肉人形として熟成させていくわよ！



エロ子は京子の緩んだアナルを愛撫しながら、不敵な笑みを浮かべた。



# 不倫人妻調教物語



## 杉原京子編(5)



英輔と京子

英輔と京子は結婚当初から、性的営みはそれほど濃密でも積極的でもなかった。英輔は50代になり、勃起を持続させることが難しくなっていた。まだ30代の京子を満足させることができていないことを自覚し、それを後ろめたく感じ、いつそう欲情を抑えることになっていた。そうした負い目から、京子に生活の不便は感じさせないようにしようとしていた。だが、それによって京子が刺激の少ない日々につまらないと感じるようになっていたのは、皮肉な結果だった。英輔と京子の日常は、どこか遠慮がちな、腫れ物にさわるような状態であった。普段の京子は控えめな性格で、本当の自分を見せるようなことはしないタイプの人間だった。見せることを怖いと思う部分もあった。英輔は、そんな京子と夫婦であっても、深く結びついていると感じられなかった。そして、自分も京子に対して素の自分を見せることがなくなっていた。京子がM女で、自分の情欲を隠すことなく見せてくるまでは……

京子の視点

速水さん、やはり焦ったみたいね。



でも、三人でのプレイを受け入れた。



やっぱり、英輔さんの言う通り、その方が訴えられないと思っただのかしら？

結局、ホテルに来ちゃったけど……、凄く大それたことをしている気がする……

SM専門のホテルでも、廊下は普通だな

え、ええ……







英輔さんまで  
巻き込んで……



とんでもない  
ことになった  
気がする。

ウツ

旦那様は、  
こちらにどうぞ



彼女は慣れている  
感じがするけど。

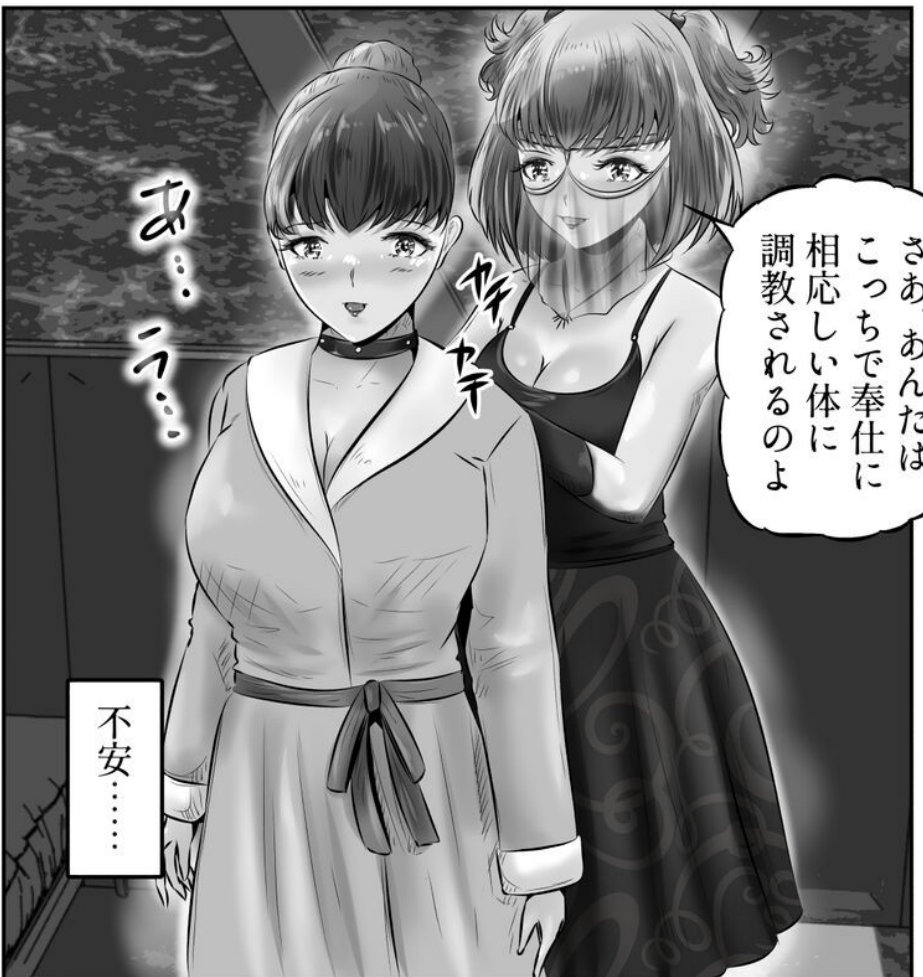
しばらくは、  
肉人形の奉仕穴を  
柔らかくする様子を  
楽しんでください



ハハ

逃げ出したい  
気持ち  
強くなる。

さあ、あんたは  
こっちで奉仕に  
相応しい体に  
調教されるのよ



不安……

ヤキヤキ

お……う……

でも、見慣れぬ  
器具に、少しだけ  
興味もある。



夫がいることで、  
安心できる部分も  
あるし……

ゴウ

やっ！ いやっ！  
こんな格好！

みんなに見られて  
いるし、恥ずかしさで  
死んでしまえそう！

ああ、でもなぜか  
感じてしまう……

アナル奉仕するのが  
好きな肉便器って  
ことだけど……

まだまだ、  
熟成が足りない  
みたいね

んん

んん

んん



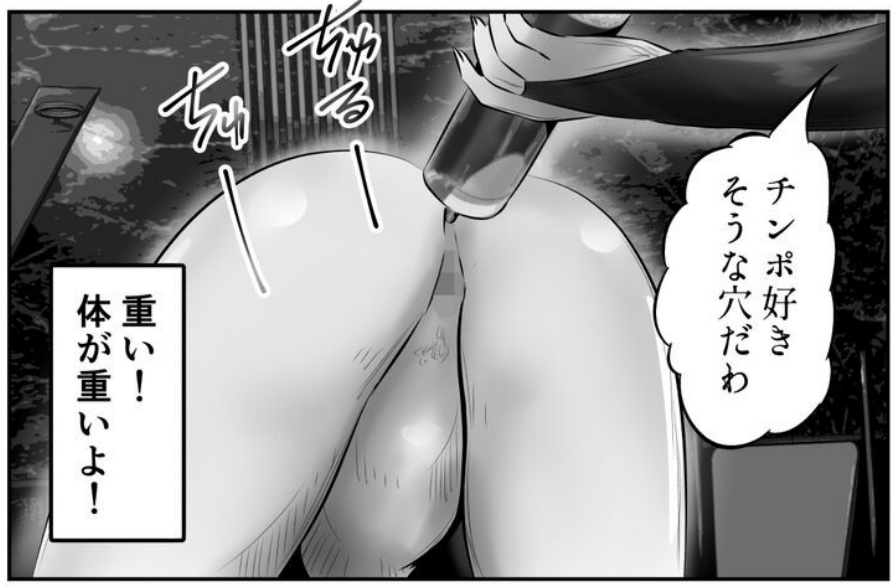




どんどん  
入っていく  
じゃない

あっ！ あっ！  
凄くたくさん  
入ってくる！

抵抗できない！  
ああっ！  
勝手に体が膨らむ！！



チンポ好き  
そう穴だわ

重い！  
体が重いよ！



ううっ！  
苦しい！  
つらいっ！！

お腹、  
お腹が……

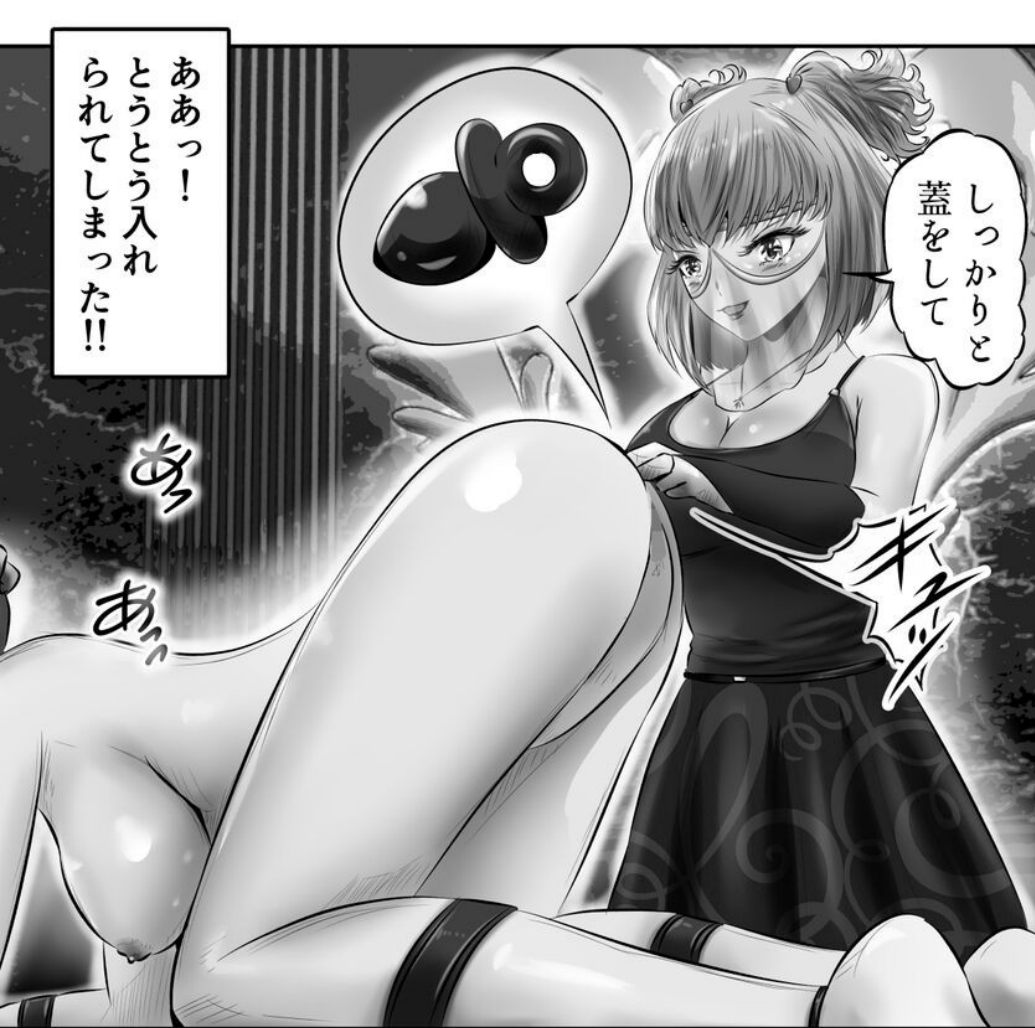


だ、大丈夫  
なのか？

問題  
ありません

よく見て  
あげてください

うう  
うう





痛い！ ああっ！  
背中！ 背中が  
裂けちゃう！！

うるさい！

速水さんとは  
威力が違う！

あんたは肉穴が  
柔らかくなる  
ことだけ、考えれば  
いいの！

こんなの  
聞いてないよ！

もしかして、  
罠にはめられた？



ああ！  
痛い！  
痛い！  
痛い！  
苦しい！  
痛いです！  
無理！  
ああ！  
あなた！  
助けて！

夫に優しく  
抱かれない！

夫に助けて  
欲しい！

もう、全身が  
痛くなってきた。

頭がぼうつと  
してくる……

うんちこつてばー！

あんたがすることは、  
助けを求める  
ことじゃないの！

見せて  
ください

ああっ！痛い！  
痛みしかない！

背中全体が  
火傷したみたいに  
熱い！！

肉棒奉仕が  
あんたの仕事  
でしょ！



肉穴の本分、  
思い出し  
なさい！

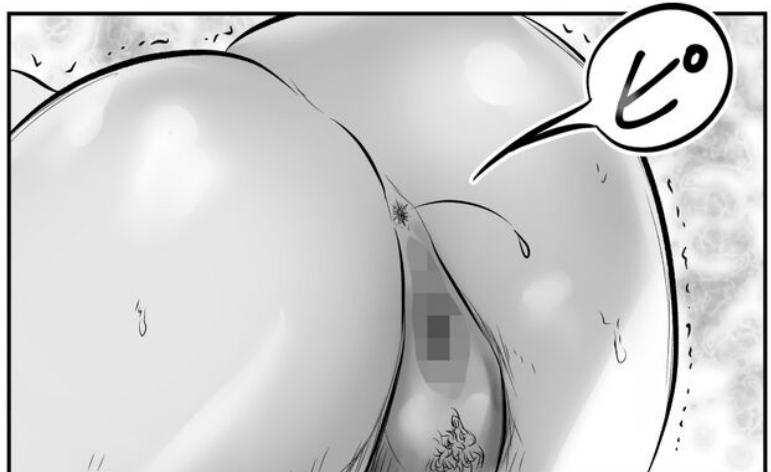


お腹が重い……、  
楽になりたい……

ほら、尻穴開放  
してあげるから！



ピ



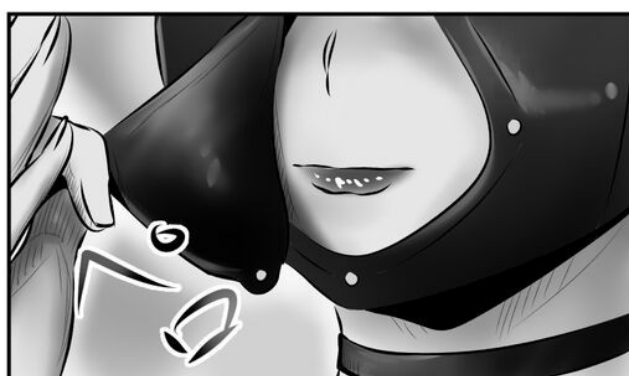
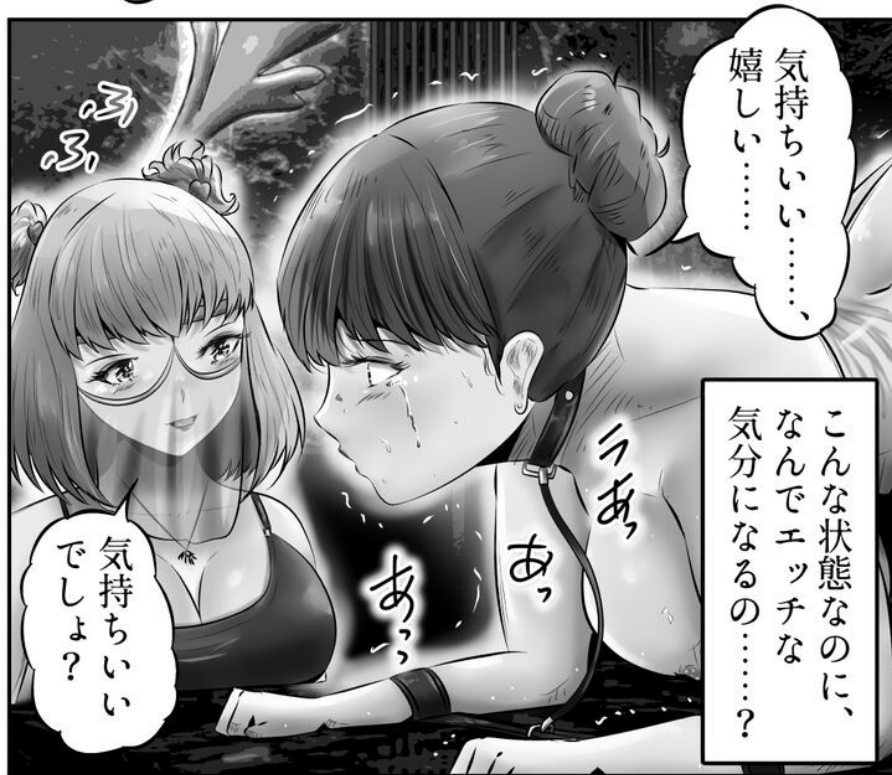
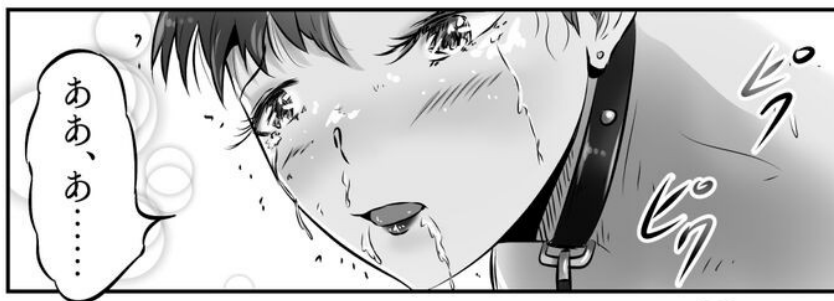


ああ！  
勝手にお尻から  
吹き出しちゃう！

恥ずかしい！  
恥ずかしくて  
死にそう！



止められない！  
ああ！  
恥ずかし  
すぎるよお！！



英輔さんが、私の  
恥ずかしい姿で  
興奮してくれたなら、  
嬉しい。

こんなプレイでも  
感じてもらえるの  
かしら？

彼女は肉棒奉仕が  
生きがいなのです

好きにさせて  
あげてください

んん



旦那様のご奉仕は、  
あの肉人形に  
任せなさい

あんたは、肉穴を  
奉仕に相応しく  
鍛錬するの

さあ、どんどん  
肉人形として  
熟成させて  
いくわよ！

あっ！ あっ！  
アナルの感度が違う！  
ああ！ 気持ちいい！！

つづく

